

みんなくりポジトリ

国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

啓定二年カム・オアイ家霊簿（日本語訳・校注）

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2009-04-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 樫永, 真佐夫, カム, チョン メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15021/00001409

II

「カム・オアイ家霊簿」2書、
「バック・カム一族家霊簿ノート」の
日本語訳注

1 「啓定二年カム・オアイ家霊簿」

啓定二年¹⁾ 二月閏拾八日、セン・パーン・パイン・クアイ²⁾ の書を記す

〈1〉³⁾ 父⁴⁾ カム・チョム

- 1) 啓定二年 (𐄂𐄃𐄅𐄇𐄉𐄋𐄍𐄏𐄑𐄓𐄕𐄗𐄙𐄛𐄝𐄟𐄡𐄣𐄥𐄧𐄩𐄭𐄯𐄱𐄳𐄵𐄷𐄹𐄽𐄿𐅀𐅂𐅄𐅆𐅈𐅊𐅌𐅎𐅐𐅒𐅔𐅖𐅘𐅚𐅜𐅞𐅠𐅡𐅣𐅥𐅧𐅩𐅭𐅯𐅱𐅳𐅵𐅷𐅹𐅽𐅿𐆀𐆂𐆄𐆆𐆈𐆊𐆌𐆎𐆐𐆒𐆔𐆖𐆘𐆚𐆜𐆞𐆠𐆡𐆣𐆥𐆧𐆩𐆭𐆯𐆱𐆳𐆵𐆷𐆹𐆽𐆿𐇀𐇂𐇄𐇆𐇈𐇊𐇌𐇎𐇐𐇒𐇔𐇖𐇘𐇚𐇜𐇞𐇠𐇡𐇣𐇥𐇧𐇩𐇭𐇯𐇱𐇳𐇵𐇷𐇹𐇽𐇿𐈀𐈂𐈄𐈆𐈈𐈊𐈌𐈎𐈐𐈒𐈔𐈖𐈘𐈚𐈜𐈞𐈠𐈡𐈣𐈥𐈧𐈩𐈭𐈯𐈱𐈳𐈵𐈷𐈹𐈽𐈿𐉀𐉂𐉄𐉆𐉈𐉊𐉌𐉎𐉐𐉒𐉔𐉖𐉘𐉚𐉜𐉞𐉠𐉡𐉣𐉥𐉧𐉩𐉭𐉯𐉱𐉳𐉵𐉷𐉹𐉽𐉿𐊀𐊂𐊄𐊆𐊈𐊊𐊌𐊎𐊐𐊒𐊔𐊖𐊘𐊚𐊜𐊞𐊠𐊡𐊣𐊥𐊧𐊩𐊭𐊯𐊱𐊳𐊵𐊷𐊹𐊽𐊿𐋀𐋂𐋄𐋆𐋈𐋊𐋌𐋎𐋐𐋒𐋔𐋖𐋘𐋚𐋜𐋞𐋠𐋡𐋣𐋥𐋧𐋩𐋭𐋯𐋱𐋳𐋵𐋷𐋹𐋽𐋿𐌀𐌂𐌄𐌆𐌈𐌊𐌌𐌎𐌐𐌒𐌔𐌖𐌘𐌚𐌜𐌞𐌠𐌡𐌣𐌥𐌧𐌩𐌭𐌯𐌱𐌳𐌵𐌷𐌹𐌽𐌿𐍀𐍂𐍄𐍆𐍈𐍊𐍌𐍎𐍐𐍒𐍔𐍖𐍘𐍚𐍜𐍞𐍠𐍡𐍣𐍥𐍧𐍩𐍭𐍯𐍱𐍳𐍵𐍷𐍹𐍽𐍿𐎀𐎂𐎄𐎆𐎈𐎊𐎌𐎎𐎐𐎒𐎔𐎖𐎘𐎚𐎜𐎞𐎠𐎡𐎣𐎥𐎧𐎩𐎭𐎯𐎱𐎳𐎵𐎷𐎹𐎽𐎿𐏀𐏂𐏄𐏆𐏈𐏊𐏌𐏎𐏐𐏒𐏔𐏖𐏘𐏚𐏜𐏞𐏠𐏡𐏣𐏥𐏧𐏩𐏭𐏯𐏱𐏳𐏵𐏷𐏹𐏽𐏿𐐀𐐂𐐄𐐆𐐈𐐊𐐌𐐎𐐐𐐒𐐔𐐖𐐘𐐚𐐜𐐞𐐠𐐡𐐣𐐥𐐧𐐩𐐭𐐯𐐱𐐳𐐵𐐷𐐹𐐽𐐿𐑀𐑂𐑄𐑆𐑈𐑊𐑌𐑎𐑐𐑒𐑔𐑖𐑘𐑚𐑜𐑞𐑠𐑡𐑣𐑥𐑧𐑩𐑭𐑯𐑱𐑳𐑵𐑷𐑹𐑽𐑿𐒀𐒂𐒄𐒆𐒈𐒊𐒌𐒎𐒐𐒒𐒔𐒖𐒘𐒚𐒜𐒞𐒠𐒡𐒣𐒥𐒧𐒩𐒭𐒯𐒱𐒳𐒵𐒷𐒹𐒽𐒿𐓀𐓂𐓄𐓆𐓈𐓊𐓌𐓎𐓐𐓒𐓔𐓖𐓘𐓚𐓜𐓞𐓠𐓡𐓣𐓥𐓧𐓩𐓭𐓯𐓱𐓳𐓵𐓷𐓹𐓽𐓿𐔀𐔂𐔄𐔆𐔈𐔊𐔌𐔎𐔐𐔒𐔔𐔖𐔘𐔚𐔜𐔞𐔠𐔡𐔣𐔥𐔧𐔩𐔭𐔯𐔱𐔳𐔵𐔷𐔹𐔽𐔿𐕀𐕂𐕄𐕆𐕈𐕊𐕌𐕎𐕐𐕒𐕔𐕖𐕘𐕚𐕜𐕞𐕠𐕡𐕣𐕥𐕧𐕩𐕭𐕯𐕱𐕳𐕵𐕷𐕹𐕽𐕿𐖀𐖂𐖄𐖆𐖈𐖊𐖌𐖎𐖐𐖒𐖔𐖖𐖘𐖚𐖜𐖞𐖠𐖡𐖣𐖥𐖧𐖩𐖭𐖯𐖱𐖳𐖵𐖷𐖹𐖽𐖿𐗀𐗂𐗄𐗆𐗈𐗊𐗌𐗎𐗐𐗒𐗔𐗖𐗘𐗚𐗜𐗞𐗠𐗡𐗣𐗥𐗧𐗩𐗭𐗯𐗱𐗳𐗵𐗷𐗹𐗽𐗿𐘀𐘂𐘄𐘆𐘈𐘊𐘌𐘎𐘐𐘒𐘔𐘖𐘘𐘚𐘜𐘞𐘠𐘡𐘣𐘥𐘧𐘩𐘭𐘯𐘱𐘳𐘵𐘷𐘹𐘽𐘿𐙀𐙂𐙄𐙆𐙈𐙊𐙌𐙎𐙐𐙒𐙔𐙖𐙘𐙚𐙜𐙞𐙠𐙡𐙣𐙥𐙧𐙩𐙭𐙯𐙱𐙳𐙵𐙷𐙹𐙽𐙿𐚀𐚂𐚄𐚆𐚈𐚊𐚌𐚎𐚐𐚒𐚔𐚖𐚘𐚚𐚜𐚞𐚠𐚡𐚣𐚥𐚧𐚩𐚭𐚯𐚱𐚳𐚵𐚷𐚹𐚽𐚿𐛀𐛂𐛄𐛆𐛈𐛊𐛌𐛎𐛐𐛒𐛔𐛖𐛘𐛚𐛜𐛞𐛠𐛡𐛣𐛥𐛧𐛩𐛭𐛯𐛱𐛳𐛵𐛷𐛹𐛽𐛿𐜀𐜂𐜄𐜆𐜈𐜊𐜌𐜎𐜐𐜒𐜔𐜖𐜘𐜚𐜜𐜞𐜠𐜡𐜣𐜥𐜧𐜩𐜭𐜯𐜱𐜳𐜵𐜷𐜹𐜽𐜿𐝀𐝂𐝄𐝆𐝈𐝊𐝌𐝎𐝐𐝒𐝔𐝖𐝘𐝚𐝜𐝞𐝠𐝡𐝣𐝥𐝧𐝩𐝭𐝯𐝱𐝳𐝵𐝷𐝹𐝽𐝿𐞀𐞂𐞄𐞆𐞈𐞊𐞌𐞎𐞐𐞒𐞔𐞖𐞘𐞚𐞜𐞞𐞠𐞡𐞣𐞥𐞧𐞩𐞭𐞯𐞱𐞳𐞵𐞷𐞹𐞽𐞿𐟀𐟂𐟄𐟆𐟈𐟊𐟌𐟎𐟐𐟒𐟔𐟖𐟘𐟚𐟜𐟞𐟠𐟡𐟣𐟥𐟧𐟩𐟭𐟯𐟱𐟳𐟵𐟷𐟹𐟽𐟿𐠀𐠂𐠄𐠆𐠈𐠊𐠌𐠎𐠐𐠒𐠔𐠖𐠘𐠚𐠜𐠞𐠠𐠡𐠣𐠥𐠧𐠩𐠭𐠯𐠱𐠳𐠵𐠷𐠹𐠽𐠿𐡀𐡂𐡄𐡆𐡈𐡊𐡌𐡎𐡐𐡒𐡔𐡖𐡘𐡚𐡜𐡞𐡠𐡡𐡣𐡥𐡧𐡩𐡭𐡯𐡱𐡳𐡵𐡷𐡹𐡽𐡿𐢀𐢂𐢄𐢆𐢈𐢊𐢌𐢎𐢐𐢒𐢔𐢖𐢘𐢚𐢜𐢞𐢠𐢡𐢣𐢥𐢧𐢩𐢭𐢯𐢱𐢳𐢵𐢷𐢹𐢽𐢿𐣀𐣂𐣄𐣆𐣈𐣊𐣌𐣎𐣐𐣒𐣔𐣖𐣘𐣚𐣜𐣞𐣠𐣡𐣣𐣥𐣧𐣩𐣭𐣯𐣱𐣳𐣵𐣷𐣹𐣽𐣿𐤀𐤂𐤄𐤆𐤈𐤊𐤌𐤎𐤐𐤒𐤔𐤖𐤘𐤚𐤜𐤞𐤠𐤡𐤣𐤥𐤧𐤩𐤭𐤯𐤱𐤳𐤵𐤷𐤹

カム・ブン・オアイ [1871-1934] は、本名カム・タイック (ᩈᩣ᩠ᨦ ᩈᩣ᩠ᨦ), バーンムオンから授かった名がカム・ブン・オアイ (ᩈᩣ᩠ᨦ ᩈᩣ᩠ᨦ, 琴文威) である。成泰2 (1890) 年、カム・ブン・オアイ公はカム・チョムすなわちカム・ヴァン・タイン公 (ᩈᩣ᩠ᨦ ᩈᩣ᩠ᨦ, 琴文清) からアン・ニャーの地位を譲り受けた。カム・ブン・オアイはムオン・ラのカム・ブン・ホアン公 (ᩈᩣ᩠ᨦ ᩈᩣ᩠ᨦ) の娘カム・ファツ (ᩈᩣ᩠ᨦ ᩈᩣ᩠ᨦ) を娶り、長老会は彼女にバック・カム・ティエン (wīn ᩈᩣ᩠ᨦ) という名を授けた。こうしてカム・ブン・オアイが得た息子が、カム・ヴァン・ズン (ᩈᩣ᩠ᨦ ᩈᩣ᩠ᨦ) [1905-1978], カム・ヴァン・ビン (ᩈᩣ᩠ᨦ ᩈᩣ᩠ᨦ) [1907-1988], カム・ヴァン・ゾン (ᩈᩣ᩠ᨦ ᩈᩣ᩠ᨦ) である。カム・ブン・オアイは、キン王朝より「佈政」および「管道」に任じられ、シップソンチャウタイの軍を束ねると同時に、詩才を発揮した。カム・オアイが記した訓話『クアム・ソン・コン (ᩈᩣ᩠ᨦ ᩈᩣ᩠ᨦ)』の内容は、現在でも高齢者の間では比較的良好に記憶されている。

カム・チョム公（カム・ヴァン・タイン）は、キンの王をたすけ、1872年にはハノイのカウザイ地区（Cầu Giấy）におけるフランシス・ガルニエ（François Garnier）率いる軍との戦い、1883年にはアンリ・リヴィエール（Henri Rivière）の軍との戦いで功を挙げた。その後は中部や红河デルタでもターイの軍を率いて軍功を挙げた。



写真の左上：カム・ブン・オアイ，中央：カム・ヴァン・ズン
(2004年3月，ソンラーのカム・ヴァン・ズンの実子宅にて)

母妣⁵⁾ カム・ダー⁶⁾
母妣⁷⁾ カム・スオイ⁸⁾
貴族⁹⁾ カム・バーン

〈2.1〉¹⁰⁾ 祖父¹¹⁾ カム・イン¹²⁾

妣¹³⁾ カム・ソーン
妣カム・ソーン¹⁴⁾

-
- 5) メー・バー (ư mẹ wí) を「母妣」と訳した。
- 6) カム・ダー (ư đā) は、カム・ラー (ư lā) と発音されるのがむしろふつうで、記述の際は、ư đā, ư lā いずれも可能である。カム・ブン・オアイ公の実母である。
「クアム・トー・ムオン・ムアツ」によると、ムオン・サーン (ư M x16) すなわち現ソンラー省モクチャウ県の貴族出自出身のヴィー・オット (ư 90n) は政治にすぐれていたために、ムオン・ムアツのアン・ニャーであるカム・バイン公（本校注では〈4.1〉）に重用され、カム姓を授かった。カム・バイン公の孫の代カム・イン公（本校注では〈2.1〉）の代に下って、カム・イン公は娘のカム・ダーを、カム・オット（ヴィー・オット）の孫カム・チョムに嫁がせ、カム・チョムをムコとして迎えた。こうして、1884年頃カム・チョム公がカム・イン公を嗣いでムオン・ムアツのアン・ニャーに就任した〔樫永 2001：291-292〕。つまり、「クアム・トー・ムオン・ムアツ」にしたがえば、カム・ブン・オアイ公から始祖は、カム・チョムの母方の父系ラインで系譜的につながるのである。
- 7) カム・オアイの実母ではないと思われるが、「母妣（メー・バー）」という尊称が冠されている。
- 8) 「(スア・ムオン) カム・オアイ家霊簿」には、ここに「祖妣カム・トーム」の名がある。
- 9) ル・タオ (ư n10j) を「貴族」と訳した。始祖と系譜的につながる同姓集合の者たちである。「(スア・ムオン) カム・オアイ家霊簿」の記述、およびカム・チョンの記憶に基づくと、未婚のまま亡くなったカム・オアイの兄のことであろう。
- 10) 同一世代の男性祖先が2人以上登場する場合、順番に〈2.1〉、〈2.2〉……のように、番号を付した。以下も同様である。
- 11) プー・タオ (ư n10j) を「祖父」と訳した。「(スア・ムオン) カム・オアイ家霊簿」注2参照。カム・オアイの父方祖父である。
- 12) この人物は、カム・チョムの妻であり、カム・オアイの母であるカム・ダーの父親である。この文書の記述だけからは、カム・オアイとの関係は不明である。「クアム・トー・ムオン・ムアツ」には、アン・ニャーであったカム・インの娘カム・ダーをカム・チョムがめとった記事がある。カム・チョムは、もともとムオン・サーン（モクチャウ）のヴィ姓 (Vĩ) であり、婚入りによってカム姓に改姓したのである〔Ngô và Cầm 1999：197, 199；樫永 2001：291〕。ここから先は、カム・インの系列の祖先が記される。
- 13) ザー・ヴァー (ư e wí) を「妣」と訳した。カム・ソーンはカム・ダーの実母である。
- 14) 「(スア・ムオン) カム・オアイ家霊簿」には、ここに「カム・チャーイ」の名がある。

〈2.2〉祖考¹⁵⁾ カム・アイン¹⁶⁾

妣カム・オーム¹⁷⁾

妣カム・ファイン

妣カム・パイン

叔母¹⁸⁾ カム・ゾー

〈3〉祖考カム・ニョット¹⁹⁾

妣カム・ボン

妣カム・ブン

〈2.3〉祖考カム・トーム²⁰⁾

妣カム・グオック

〈2.4〉祖考カム・ムオン²¹⁾

-
- 15) プー (√e) は、父方の祖父を呼ぶ親族名称であり、高齢者、亡くなった父祖を呼ぶ尊称である。ここでは「祖考」と訳した。
- 16) カム・オット (ヴィー・オット) の実子のカム・アインであらう。「クアム・トー・ムオン・ムアッ」によると、カム・アインの息子カム・チョムがカム・インの娘カム・ダーを娶って、カム・インを嗣ぐのである〔樞永 2001: 291-292〕。なお、〔系図資料3〕が示すように、カム・ヴァン・ピンが伝えたヴィー・オットの親族関係によると、〈2.2〉から〈2.8〉までの兄弟は、すべてヴィー・オットの息子であり、出生順でいえばカム・トム〈2.3〉、カム・ムオン〈2.4〉、カム・アイン〈2.2〉、カム・サック〈2.5〉、カム・ブン〈2.6〉、カム・ヌイ〈2.7〉、カム・バーン〈2.8〉である。
- 17) 「(スア・ムオン) カム・オアイ家霊簿」には、「妣カム・オーム」ではなく「祖妣カム・オーイ」という名が記されている。カム・チョンは、オームの方がオーイより地位ある女性の名としてはふさわしいため、オームが正しいのではないかという。
- 18) アー・ナーン (əɪ nɑ̃n) を「叔母」と訳した。アー・ナーンという呼称が用いられているのは、エゴであるカム・ブン・オアイ公の叔母、すなわちカム・チョム公の妹であるからであらうか。あるいはカム・イン公かカム・アイン公の妹にあたるのであろうか。とにかく、この家霊簿にその名前が登場するのは、未婚のまま亡くなったからであらう。もし婚出していれば、この家霊簿には名前が記されないはずである。
- 19) 「クアム・トー・ムオン・ムアッ」によると、カム・インの父であらうか〔Ngô và Cầm 1999: 197, 199; 樞永 2001: 291〕。ただし、「クアム・トー・ムオン・ムアッ」には、カム・ニョットが2人登場するのに対し、この家霊簿には1人しかでてこない。
- 20) 「(スア・ムオン) カム・オアイ家霊簿」注14参照。
- 21) カム・チョンによると、ムオン・ムアッの内ムオン首領であったという。内ムオンとは、ムオン・ムアッを構成する複数のムオンを束ねる中心ムオンで、内ムオン首領の上にアン・ニャーをいただいていた。

妣カム・サイン

妣カム・フオン

妣カム・ケオ²²⁾

〈2.5〉 叔父²³⁾ カム・サット

大叔母²⁴⁾ カム・ゾット

妹²⁵⁾ カム・ハック

〈2.6〉 叔父カム・ブン²⁶⁾

〈2.7〉 叔父カム・グイ

〈2.8〉 叔父カム・バーン

叔母²⁷⁾ カム・ティア

〈4.1〉 祖考カム・パイン

妣カム・スオイ

妣カム・チュック

妣カム・ニョック

22) 「(スア・ムオン) カム・オアイ家霊簿」には、ここに「祖妣カム・ドゥック」の名が見える。

23) アオ (๑1๐) を「叔父」と訳した。アオは、父や母の弟すなわち「叔父」に対して用いる親族名称である。叔父 (アオ) が用いられているのは、カム・アインの弟に当たるからであろう。しかし、カム・アインの兄に当たるはずのカム・トム 〈2.3〉、カム・ムオン 〈2.4〉に、ルン (๕6) すなわち「伯父」にあたる呼称が用いられているわけではない。他の多くの箇所と同様、プー (祖考) が用いられている。

24) ルア・ナーン (๕๕ ๔16) を「大叔母」と訳した。前述のアーとともに、ルアも「叔母」にたいして用いる親族呼称である。アー・ナーンと訳しわけた。

25) ノーン (๔๑6) をノーン (๔๑6j) と翻字し「妹」と訳した。しかし、高貴な女性に対する尊称としてのナーン (๔16) の誤字である可能性もある。ナーンは以下では「妃」と訳している。「妹」であるとするれば、ここは大叔母カム・ゾットの妹という意味であり、カム・ゾットが若くして亡くなったのでカム・ハックを後妻に迎えたということであろうか。

26) 「(スア・ムオン) カム・オアイ家霊簿」には、カム・ブンのあとに、その妻「祖妣カム・ティアッ」の名がある。

27) ここでは、ルア (๕๕) という「叔母」に対して用いる親族呼称を用いている。原本においてルア・ナーンやアー・ナーンと用法上どのように区別しているのか明確ではない。したがって、ここではアー・ナーン同様、「叔母」と訳した。

〈4.2〉祖考カム・イン²⁸⁾

〈4.3〉祖考カム・プア²⁹⁾

〈5.1〉祖考カム・ホーイ³⁰⁾

妣カム・ヘオ

〈5.2〉祖考カム・バー³¹⁾

祖妃³²⁾ カム・チョック

〈5.3〉祖考カム・テーン

祖妃カム・オーイ³³⁾

〈5.4〉祖考カム・ソーム

妣カム・バン

妣カム・ティエン

妣カム・ソーン

妣カム・イー

〈6〉祖考カム・チュア³⁴⁾

28) カム・パインの兄弟であろうか。妻がいなかったのか、妻らしい人の名が記されていない。

29) これもカム・パインの兄弟であろうか。妻がいなかったのか、妻らしい人の名が記されていない。

30) 「クアム・トー・ムオン・ムアツ」に従うと、カム・パインの父がカム・ニョット、その父がカム・ホーイとなる〔Ngô và Cầm 1999 : 195 ; 樫永 2001 : 290-291〕。

31) 「(スア・ムオン) カム・オアイ家霊簿」注19参照。

32) ザー・ナーン (𑜋𑜢𑜤𑜰𑜫 𑜇𑜢𑜤𑜰𑜫) を「祖妃」と訳し、ザー、ザー・チャウ・ナーンなどとの訳語の区別のために訳しわけた。

33) 原文は、𑜋𑜢𑜤𑜰𑜫 𑜇𑜢𑜤𑜰𑜫 である。一方、「(スア・ムオン) カム・オアイ家霊簿」には、𑜋𑜢𑜤𑜰𑜫 𑜇𑜢𑜤𑜰𑜫 とある。カナ表記すればいずれもカム・オーイと書くほかないが、𑜋𑜢𑜤𑜰𑜫 𑜇𑜢𑜤𑜰𑜫の方が名前としてはふさわしい。

34) 「クアム・トー・ムオン・ムアツ」には以下のような記述がある。

景興40 (1779) 年、キンの王の命にしたがって、ムオン・ムアツの外ムオンのフィアであったカム・チュア公が、ラオカイ省、カオバン省方面にホー族 (𑜋𑜢𑜤𑜰𑜫) 討伐のため挙兵した。その功で、カム・チュア公はキンの王の信を得、カム・ニャン・クイ (𑜋𑜢𑜤𑜰𑜫 𑜇𑜢𑜤𑜰𑜫) の名を賜り、「果敢將軍 (Quả Cảm Tướng Quân)」としてマイソン知州に任ぜられた。一方、カム・

妣カム・ファウ

〈7〉祖考カム・バーン³⁵⁾

妣カム・シン

〈8〉祖考カム・ファン

妣カム・ヒエン

〈9〉祖考カム・クエン³⁶⁾

妣カム・サウ

妣カム・ルー³⁷⁾

ウンガムオン・チャインのフィアとなった。カム・ニャン・クイ公はまたカム・コー（𑜋𑜨𑜃𑜫 (ne)）とも呼ばれる。退位して没後は、カム・ホイ（𑜋𑜨𑜃𑜫 uəvə）という名の息子が嗣いだ〔樫永 2001：290〕。

ソンラー省マイソン県チエンマイ社には、かつてカム・ブン・オアイの館があったところの岩山に、保大5（1930）年に刻まれたという碑文が現在まで残っている。上の記事を記念し、カム・ニャン・クイ（琴仁貴）が地域を防衛する果敢將軍に任ぜられた旨が記されている。全文は以下の通りである。

勅枚山州輔導琴仁
貴為以侍奉番臣
輔導破有才藝再
上進錢鈔以資國
用特賜防禦僉事
職可為果敢將軍
軍民防禦使司防
禦僉事下班此
勅
景興四十年二月十三日



かつてカム・ブン・オアイの館があった場所（2002年10月）

保大五年三月吉日

佈政琴文威誌

35) 「(スア・ムオン) カム・オアイ家霊簿」注20参照。

36) カム・チョンによると、「クアム・トー・ムオン・ムアッ」に登場するカム・グエン（𑜋𑜨𑜃𑜫 ꞑ𑜧𑜨𑜃𑜫）がこれと同一人物であるという〔Ngô và Cầm 1999：193；樫永 2001：290〕。このことは、2人目の妻としてその名があがっているカム・ルーが、チエンマイ王朝から嫁いできた者であるからという理由からも正しいとカム・チョンはいうが、上記の『クアム・トー・ムオン』にはその記述がなく、筆者は典拠を知らない。

37) カム・チョンによると、ランナータイ王国チエンマイを占めていたルー族の王族出身なので、名前がルーであるという。

〈10〉祖考カム・イー

妣カム・ソム

婦人³⁸⁾ カム・バーン

祖妃カム・ファイン

〈11〉祖考カム・コーン³⁹⁾

祖妃カム・ハック

祖妃カム・プア

祖妃カム・プオン

〈12〉祖考ファー・クン

祖妃ガン

〈13〉祖考ブン・スン

祖妃カム・チョム

祖妣⁴⁰⁾ ガン・チャン

〈14〉祖考ニョー・ムオン⁴¹⁾

祖妃カム・ト⁴²⁾

婦人カム・ミウ

祖妃カム・パイ

〈15〉ウン・ムオン公

祖妃ウン・スオム

38) ザー・チャウ (𑜋𑜀𑜂𑜆 𑜏𑜢𑜤𑜃𑜫) を「婦人」と訳した。「婦人」はキンの家譜中でしばしば正妻の意味で用いられるが、ザー、ナーンをはじめとする貴人女性に対する他の尊称と訳語上の区別をするため、ここでは「婦人」を用いた。

39) カム・チョンによると、「クアム・トー・ムオン・ムアツ」中ではカム・コーン (𑜋𑜀𑜂𑜆 𑜏𑜢𑜤𑜃𑜫) [Ngô và Cầm 1999: 193; 桎永 2001: 290] と記されているが、カム・チョンによると、これはカム・チョン自身による翻字の誤りであり、原本にあるカム・コーン (𑜋𑜀𑜂𑜆 𑜏𑜢𑜤𑜃𑜫) が正しいという。

40) ザー (𑜋𑜀𑜂𑜆) を「祖妣」と訳した。

41) 「クアム・トー・ムオン・ムアツ」によると、ニョー・ムオンの治世に、ムオン・ラからムオン・ムアツは独立したチャウムオンになったという [Ngô và Cầm 1999: 191; 桎永 2001: 289]。

42) 原本には、𑜋𑜀𑜂𑜆 𑜏𑜢𑜤𑜃𑜫 と記述されているが、カム・チョンにしたがって 𑜋𑜀𑜂𑜆 𑜏𑜢𑜤𑜃𑜫 と翻字した。

婦人祖妃ウオ・ガン・トーン⁵¹⁾

〈20.1〉温厚だが雄弁雷のごとし⁵²⁾。女性たちも寄り慕うタオ・ニー・タ・ガン公⁵³⁾。

婦人祖妃オック、セーン、ムアッ・ローン・サーン⁵⁴⁾

〈20.2〉祖考カム・ソーイ⁵⁵⁾

妣カム・ラーイは、若さに溢れ、寝台の中できぐる回る⁵⁶⁾。

〈21〉タ・カム公は高主⁵⁷⁾

婦人祖妃ニー・ナーン・ラーイ⁵⁸⁾

婦人祖妃ロム・クイ・クアック⁵⁹⁾ は外に⁶⁰⁾。

51) ガン・トーンとは直訳すると「銀、銅」の意味であるが、一般には金銀を示す。

52) 「温厚だが、雄弁雷のごとし (ḡ ṽḡe ʔəu ṽḡj ṽ ṽ ʔḡ ṽ ṽ ṽ)」という諺が、その人となりを示している。

53) タオ・ニーのニー (ḡe) は十二支の「寅」のことである。「クアム・トー・ムオン・ムアッ」によると、ズオン・カムの父タ・ガン公は、ムオン・ムオイを食邑していた。このときムオン・ムオイを奪取しようと謀って挙兵した2人の弟ター・トン (m1 nə6) を、ラオ王サム・セン・タイ (w1 n ṽḡj x1 ṽ ṽ ṽ ṽ ṽ ṽ) の力を借りて制圧し、その後ムオン・ラを食邑した [Ngô và Câm 1999: 189; 樫永 2001: 288]。タ・ガン公は、その父タ・カム公、祖父カム・レット公とともに、黒タイの有名な英雄父祖の一人である。

54) ここも婦人祖妃オック・セーン・ムアッ・ローン・サーンという1人の人物なのか、婦人祖妃オック、妃セーン、妃ムアッ・ローン・サーンという3人なのか、記述だけでははっきりしないが、前者としてここでは解釈した。ローン・サーン (ṽḡ ṽ x1 ṽ ṽ) とは「いつも脇にいる」という意味である。人となりにすぐれ、家人や使用人に慕われていたことを意味しているのであろう。

「クアム・トー・ムオン・ムオイ」には、タ・ガン公の妻は、ムオン・ライ首領の娘セーン・ムオン (ṽḡ ṽ ṽ ṽ ṽ ṽ ṽ) として登場する [樫永 2003: 182]。

55) 「クアム・トー・ムオン・ムオイ」によると、タ・ガン公には、タ・デック (m1 ṽ ṽ ṽ), タ・ヒン (m1 ṽ ṽ), タ・トーン (m1 nə6), タ・ダム (m1 ṽ ṽ), カム・ナム・ナーン (ḡ ṽ ṽ ṽ ṽ ṽ), ソーン・クオン (xə6 ṽ ṽ ṽ) の兄弟がいた [樫永 2003: 181]。ただし、このカム・ソーイに符合する兄弟の名は見あたらない。

56) 若くて元気よく家の中を立ち回る様子を形容していると思われる。

57) チャウ・ニャウ (ṽḡj ṽ ṽ) を「高主」と訳した。チャウは「首領、頭領」、ニャウは「大きい」という意味である。

58) ナーンは貴族出自の女性のことを一般にさす。ニー・ラーイ (ḡe ṽ ṽ) とは「縞のあるトラ (寅)」のことである。

59) クイ・クアック (ḡ ṽ ṽ ṽ ṽ ṽ ṽ) とは「くるくる回転する」という意味。機転が効き、行動が早かった人なのであろう。

60) 第二夫人以下が、正妻と一緒に座することはできないのである。

〈22〉雷がとどろき嵐がおこるタオ・レット・ロ公は、賢者である⁶¹⁾。

婦人祖妃ウオイ・レップ・カウ⁶²⁾ は、パーン結い⁶³⁾ の黄金⁶⁴⁾ が天の糸⁶⁵⁾ のごとくまばゆい。

〈23〉声の大きいタオ・クアツ・チュー・ナーン公⁶⁶⁾ は、ムオン・ムオイとムオン・ラーの2ムオンの力をおし上げた長である。ムオン・ファッ⁶⁷⁾ の盆地で女性⁶⁸⁾ を舟で迎撃した。大軍で谷の周りを取り囲み、船を漕いでタ・パーン、ターン・アー⁶⁹⁾ を通った。公が窓の前に座すのに、以下の2人が寄り添った。

妃アー⁷⁰⁾

妃ズア⁷⁰⁾

61) $\alpha\eta$ のあとに、 $\mu\alpha\mu$ という文字が行間にあとで補われている。 $\alpha\eta$ は「遠い、賢い」などさまざまな意味を持つ多義語である。ここでの $\alpha\eta$ が「諸事に明るい」という意味であることを示すために、 $\alpha\eta\mu\alpha\mu$ という熟語にしたものであろう。カム・ビンによる加筆と思われる。

62) カム・チョンによると、この女性の名は、ウオイ・トゥオイ・レップ・カウ ($\iota\omega\iota\ \iota\mu\iota\ \mu\epsilon\mu\ \iota\mu\iota$) で、ここではトゥオイの字が欠字しているという。ウオイ・トゥオイ ($\iota\omega\iota\ \iota\mu\iota$) とは「ひらひらと舞う様子」のことで、ウオイだけなら意味をなさない。レップ・カウは細髪で結った髻のことである。ただし、「(スア・ムオン) カム・オアイ家霊簿」には、ウオイ・トゥオイ・レット・カウ・コーンとあるので、違う解釈も可能である。カウ・コーン ($\iota\mu\iota\ \eta\epsilon\theta$) とは「(10回のうち) 9回」の意味、レット ($\mu\epsilon\mu$) は彼女の夫ロー・レップ公のことである。ロー・レップ、ロー・レットいずれの呼称でもいいのは、レップは「なすりつける」などあまりきれいな意味ではなく、ロー・レットと呼びかえられることが多いからである[樫永 2002: 435]。つまり、ウオイ・トゥオイ・レット・カウ・コーンとは、10中9の踊りをこなす踊り上手で、しかも美しかったことを表現した名前だとも解釈できる。

63) $\iota\mu\iota\sqrt{\iota\mu\iota}$ とは、髪をふくらませた独特の結い方で、がつて若い女性の間で見られた。ここでは「パーン結い」と訳した。

64) 金の簪で飾っていたのであろう。

65) $\chi\iota\omega\ \mu\iota\iota$ を「天の光の糸」と訳した。地上に降り注ぐ美しい日光の光線の美しさを表現している。

66) 「チュー・ナーン ($\chi\epsilon\ \mu\iota\iota$)」とは「女性たち」という意味である。カム・チョンによると、妻妾がたくさんいたという意味ではなく、美男子で女性たちに好まれたという意味であるという。

67) 現ディエンビエン省トゥアンザオ県チエンシン社 (xã Chiềng Sinh)。

68) 「(スア・ムオン) カム・オアイ家霊簿」の記述を参照すると、 $\chi\iota\omega$ (女性) は $\nu\iota\omega$ (ラオ) の誤記と思われる。つまり、「女性を迎撃した」というのは意味が通らず、「ラオを迎撃した」のである。

69) この2カ所とも、ムオン・ムアツに属するター河沿いの地名。

70) 原本には、 $\mu\iota\iota\theta\iota\mu\iota\iota\sqrt{\iota\mu\iota}$ と記されていて、妃アーと妃ズアの2人という意味なの

- 〈24〉 チュオン・トーン・ナム・ニュン公⁷¹⁾。水かさが増して砂岸まで達し、ケーの魚のみこんで、縞あるケー⁷²⁾ が顕現するタオ・ニュン公。

婦人祖妃ウオイ・トゥン・ニュン

- 〈25〉 タオ・クアツ・ラーン公

婦人祖妃トゥン・ルオン・ダオ⁷³⁾

か、妃アーン・ズアで1人なのかははっきりしないが、前者に解釈した。

「クアム・トー・ムオン・ムオイ」に、アン・パン (əŋ pən) という名で登場するタオ・クアツの妻のことか、また別の人のことかはここだけからははっきりしない。アン・パンは現ソンラー省トゥアンチャウ県チエンガム社 (xã Chiềng Ngâm) サン村 (bản Xăng) の異民族サー (今日の民族分類に従えば、ここではラー・ハーであろう) といわれている。パー・カム・ニャーン (wá ấ ư ư ư) とよばれ、聡明な女性として伝承で知られている。

民間では、太い糸をつくって肩提げ袋 (q6 nư) を最初に作ったのは彼女であると伝えられている。ムオン・ムアツ、ムオン・ラーでは竹で編んだ籠 (rưn) を用いるのに対し、ムオン・ムオイ、ムオン・クアイでは肩提げ袋を伝統的に用いるのである [樫永 2003: 175]。この肩提げ袋を携帯する習慣と、その便利さに関する語りが、彼女の聡明さを象徴する逸話として黒タイの人々の間で記憶されている。



- 71) 「(スア・ムオン) カム・オアイ家霊簿」では、チュオン・トーン・タオ・チュン公となっている。その妻の名が「婦人祖妃ウオイ」となっている。一方、こちらの原本には、チュオン・トーン・タオ・チュン公のあとに、「(スア・ムオン) カム・オアイ家霊簿」には登場しない「タオ・ニュン公」が登場し、その妻の名が「婦人祖妃ウオイ・トゥン・ニュン」となっている。まるで、この原本にあるチュオン・トーン・タオ・チュン公とタオ・ニュン公2公が、「(スア・ムオン) カム・オアイ家霊簿」ではチュオン・トーン・タオ・チュン公1人に集約されているかのようである。
- 72) *ưnưj ưnưưưư* とは「縞のあるケー」という意味である。川魚の一種ケー (*ưưưưư*) には縞はない。「縞のあるケー」とは通常ミズチ (*ưưưư*) のことを示している。ミズチの出現は凶兆とされ、これを目にした者は死ぬと伝えられている。
- 73) *ưưưưưưưưưưưưưư* の箇所も、「婦人祖妃トゥン・ルオン、妃ダオ」の2人なのか、「婦人祖妃トゥン・ルオン・ダオ」の1人なのか、はっきりしないが、ここでは後者に解釈した。

頭首ガン・ザーン⁸⁴⁾を嗣いで「ムオンの柱」⁸⁵⁾をたてて整えた公がサイ・チャー
ン公⁸⁶⁾である。公は勇猛で、兵も多く人にまさる。

〈29〉サイ・チャーン公。公は、大軍を率いてうち勝つ勇者。

婦人祖妃パーン・ガーム

婦人祖妃アーン・オック

婦人祖妃アイン・オーン⁸⁷⁾

〈30, 31〉 クン・チュット, クン・チュン公⁸⁸⁾

祖妃ムオン

婦人祖妃チット

がいつも寄り添った。

〈32.1, 32.2〉 クン・ムン公、クン・フットは幼いときから人の相を見るのにすぐれる。

〈33〉 後継⁸⁹⁾ クン・ペー公⁹⁰⁾

〈34〉 始祖⁹¹⁾，彷徨のラン・チュオン，

ムオンを攻めて貢納させた。

84) ガン・ザーンは、英雄叙事詩『チュオン・ハン物語 (ကျောမ ၁၇၆ ဟာလဲ)』に登場する巨人の名前である。

85) ダック・ケーン (ᠳᠠᠭᠦ ᠬᠡᠨ) はムオンの生命力の象徴として建立される「ムオンの柱 (ᠳᠠᠭᠦ ᠮᠤᠪᠤ)」のことである。マイ・ケーン (ᠮᠠᠢ ᠬᠡᠨ) の木を用いて作るので、ダック・ケーンという。ダック・テーン (ᠳᠠᠭᠦ ᠲᠡᠨ) と翻字したとしても意味は変わらない。

86) 「(スア・ムオン) カム・オアイ家霊簿」には、サイ・チャーン公の前に、タオ・チエウ公、カーン公の2公の名がある。

87) 『*スルツナヒノワタシ*^(註)』と『*スルツナヒノオモイ*』の両書に「スルツナヒノオモイ」の箇所も、「婦人祖妃パーン、妃ガーム、婦人祖妃アーン、妃オック、婦人祖妃アイン、妃オーン」の6人なのか、「婦人祖妃パーン・ガーム、婦人祖妃アーン・オック、婦人祖妃アイン・オーン」の3人なのかはっきりしないが、ここでは後者に解釈した。なお、『(ス・ムオン) カム・オアイ家霊簿』では、婦人祖妃パーン・ガームの名が「婦人祖妃パー・ガーム (*wā gām*)」となっている。

88)「(スア・ムオン) カム・オアイ家霊簿」には登場しない。サイ・チャーン公の兄弟であろうか。

89) 「嗣ぐ」という語にはノイ (nối) というキン語 (ベトナム語) が用いられている。

90) この人物は夭折したと思われる。

91) $\sqrt{e}une$ は $\sqrt{e}(\lnne\sqrt{e}une)$ と同義で「始祖」のことである。

齡⁹²⁾ 尽き、掛け竿⁹³⁾ の数も多く、布団に横たわる⁹⁴⁾。
 それぞれの掛け竿には、幾条もの龍の彫刻が施されている⁹⁵⁾。
 長である者たちがたくさんのムオンを過ぎっていった。
 彼らは盾を振りかざし、ムオン・口の笠を被っていた。
 長たちは、黄金色の頭衣をかぶっていた。
 ムオンを攻め、菜園の香葉の茎は赤黒く変色した⁹⁶⁾。若芽や枝は力強い⁹⁷⁾。
 首領セン・ナー・ター・ルムを首領とするサー⁹⁸⁾ は、……⁹⁹⁾。
 ターイのみが長に従い、覚悟を胸にして¹⁰⁰⁾、水を手で掬って飲んだ¹⁰¹⁾。
 君主¹⁰²⁾ となって、それから子孫¹⁰³⁾ が栄えた。
 ムオンをつくり、栄華を待ち望む。

現世の子孫は最後に食べます。一番下の子孫があとから食べます¹⁰⁴⁾。
 ムオンの長の支族の者たち¹⁰⁵⁾ は、家々を遊行します。

-
- 92) tuđi (mɛj) というキン語 (ベトナム語) が用いられている。
 93) 寝所のカーテンをつるす竿のことである。
 94) 人が亡くなると、寝所のカーテンを吊る竿に、布団や服などをすべてかける習慣がある。そのことを示している。つまり、ラン・チュオン公は亡くなったのである。
 95) 公が長寿で、しかもどの年も実り豊かであることを示している。
 96) ムオンを支配したことに比喩である。支配して開拓したムオンの中に菜園ができると、そこでできた野菜を摘むから、摘んだ野菜の茎が赤黒くなるのである。
 97) ターイ (ここでは黒タイ) による新しい支配者の強力さを示す。
 98) セン・ナー・ター・ルム (uxu ɯi mɪ ɣɛ) すなわち「百万の田、世界の目」とは先住民サー (xɪj) の首領の名であろうか。
 99) ここは意味不明である。もしかすると、uđ ɣuɛ はチエウ・ナイ (uđ ɣuɛ) と読み、キン語の「本日の午後 (chiêu nay)」の意味かもしれない。uɛ は「殺す」という意味のカー (uɛj) であろうか。
 100) wɛ は白タイ語で、正しくはこの「w」は /ph/ の音であるが、黒タイ文字にはないため wɛ と表記したのであろう。意味は、「深く恨む」などという意味である。
 101) これも比喩的な表現で、戦いに備えて力をみなぎらせたことを言うのである。
 102) ここではクン (uɛ) を「君主」と訳した。
 103) カム・オアイ公のことをさしている。
 104) 儀礼では、先になくなった祖先たちに食べさせ、それから現在生きている人たちが食べるのである。
 105) ダム (ɲj) をここでは「支族」と訳した。一般には、ダムはシーン (xɛ) すなわち「姓」と同義で用いられる。しかし、厳密には異なる。ダムについて説明するには、以下にでてくるヴァー (ɣj, wɔj) という概念についての説明が必要である。
 ヴァーとは、エゴの4代上の祖 (iɣɛ) を起点として、3代上の祖 (iɣj) すなわち祖祖父、2代前 (ɣe) すなわち祖父、1代前 (wɛ) すなわち父とエゴの代の同りネージの男たち

ムオンの長の大支族¹⁰⁶⁾の精霊は、もうずいぶん集まっています。長たる曾祖父や祖考祖妣たちもたくさんいます。

知己でない祖先の方々¹⁰⁷⁾にお祈りします。お気をつけてお越しください。まだ呼ばれていない祖先の方々にお祈りします。父祖の方々、きっとお気をつけてお越しください。

行き来なさるの方々、ゆっくり待って、一緒に食事をいたしましょう¹⁰⁸⁾。一同の方々、一緒に食事いたしましょう。各位一緒に食事いたしましょう。

一緒にご食事なさって¹⁰⁹⁾、そしてお助けください。ともに食事をして、加護を願います。楽しんで食べてくださいね。ガーガー読経しますからね¹¹⁰⁾。

水牛を供犠する祭礼ならタイの護符¹¹¹⁾にプタ。プタを供犠する祭礼なら護符にニワトリ。

全て、及びエゴの4代下の子孫（ $\eta\theta\upsilon\zeta$ ）に至る同じ父方キンドレッドに属する男性全てを指す。なおダムとは、ヴァーのうちエゴの代より上の代の男性全てのことである。

106) ここではフィー・パーンを「支族の精霊（ $\alpha\sqrt{16}$ ）」と訳した。上の注参照。

107) この原本に名前が挙がっていない祖先たちのことである。

108) $\zeta\eta\zeta \hat{\mu} \eta\zeta$ は $\zeta\eta\zeta \hat{\mu} \eta\zeta$ ($\sqrt{e}\sqrt{1e}$)、すなわちすべての家霊を食事に招くことを意味している。

109) $\alpha\sqrt{n\hat{\mu}n\hat{\mu}}$ は「共食すること」である。

110) モ・ムオンが読経する様子を、ガーガーという擬音語で述べているのである。

111) 男の子が生まれたときに、各家に設置された家霊を祀るための空間「家霊の間（ $\alpha\sqrt{j\eta\theta\zeta}$ ）」につるすタイ・ホー（ $\zeta\eta\zeta \hat{\eta}$ ）という護符のことである。



